

「全国社会教育主事の会」研究交流会

令和4年10月27日(木)～10月28日(金) 参加会員数：43名

主催：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター・全国社会教育主事の会
実施方法：対面及びライブ配信の同時併用（ハイフレックス方式）

「全国社会教育主事の会」は、全国の社会教育主事が広域的に情報交流を行い、時代に即応した専門性を高めるとともに、地域を越えた絆を深めながら、多様化・高度化する社会教育行政の遂行にあたって必要な知識や意識の向上を図り、社会教育主事の全国的なネットワークの形成や社会教育の一層の推進を図ることを目的に、平成29年に発足した組織である。今年度は、3年ぶりに対面での研究交流会を開催し、同時にライブ配信も行う「ハイフレックス方式」を採用して、2日間の日程で交流を行った。

【情報提供】「第11期中央教育審議会生涯学習分科会の『議論の整理』からみる社会教育行政の最新動向」

文部科学省地域学習推進課 社会教育人材研修係長 福田 健太郎

令和4年8月に公表された「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～」のトピックスに基づいて、これからの社会教育主事・社会教育士に求められている役割や公民館等の社会教育施設におけるデジタル活用の可能性、地域と学校の連携・協働の推進や社会的包摂を視野に入れた人権教育の重要性などについて情報提供があった。



【分野別交流プログラム】

各自治体における社会教育の進展・取組状況等について情報交換を行い、今後の社会教育主事の役割等についての知見を得る機会とするため、社会教育が喫緊の課題として取り組むべきとされている4つのテーマについて交流を行った。

参加者全員が、全テーマに参加できるように、対面の参加者は各会場を移動しながら、オンライン参加者はウェブ会議システムのブレイクアウトルーム内を移動しながら、時間ごとにローテーションを行って交流した。また、対面の参加者とオンラインの参加者の相互交流も行った。

社会教育実践研究センター職員

★★★ 交流の4つのテーマ ★★★

- ①：どうやって実現する？
「命を守る」社会教育・社会的包摂とは
- ②：どこまで進んでいる？
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- ③：どう変わっていく？
アフターコロナ社会における事業・研修の在り方とデジタル社会への対応
- ④：どう連携していく？
社会教育士の登場と社会教育主事の今後

参加者の声

- 全テーマについて情報交換でき視野が広がった。
- 対面の良さとオンラインの良さを両方を取り入れられていると感じた。
- ブレイクアウトルームに対面参加の方々も一緒に入って交流できたのが良かった。1テーマあたりの交流にもっと多くの時間が欲しいくらいだった。



【講演・交流】「アフターコロナ社会に求められる社会教育主事の役割とは何か」

栃木県総合教育センター 生涯学習部長 井上 昌幸

昨今の社会教育を巡る様々な変化等を踏まえつつ、これからの社会に求められる社会教育主事の役割についての講演があった。参加者の社会教育主事としての経験や日々の業務について、「取組チェックリスト」を用いて振り返り、その結果を基に交流を行った。都道府県・指定都市行政の施策を立案する際の視点として、「先駆性」「広域性」「包摂性」を意識することの重要性や、今後の施策展開のヒントについてもふれられた。



参加者の声

- 市町村に対して包摂的な施策が打てるよう、明日からまた頑張ろうと思います。
- 自身の業務はもちろん、県の取組を俯瞰的・相対的にみる機会をつくっていただけたと感じています。
- 誰のために、何のために行うのかをしっかりと見極めながら、施策を考えていきたいと強く思いました。